

第 28 回調査 <2000 年 9 月調査>

業況は引き続き改善、利益状況は厳しさ残る大阪同友会 第 28 回景況調査結果を発表
第 28 回定点調査の結果がまとまりました。7～9 月期は、売上・利益・受注状況ともに
D I 値プラスとなり 4～7 月期にその兆しが見えた業況の改善が引き続き進み、10～1
2 月期もこの趨勢は続くという予測になっています。(表 1)

しかし、売上 D I 値は、プラスになっても全般に利益の改善は遅れており、受注も厳しさ
を残すなど深刻な不況下の経営実態は依然として容易ならぬ環境にあるといえます。(調
査対象 355、有効回答 128、回収率 36.1%。調査期日 2000 年 10 月 10、回答企業平均従
業員数 30.8 人、回答企業平均資本金 2,399 万円) 今回調査から調査対象を 110 社増やし
ました。前回と比べて平均従業員数と資本金額が下がっているのはその為です。これまで
の調査対象はそのまま継続していますので調査結果の連続性を著しく損なうことはありません。
(調査担当事務局)

<環境変化の予想>業界の見通しは今後悪化

特別項目「環境変化の予想と政策」については、前回調査と比べ「業界見通し悪化」との
回答が数、率ともアップしています。一般景気、業界動向とも明年を通じて不安定で、底
入れはまだまだとする傾向を明らかにしています。また、新たな設問 I T 情報技術関連の
仕事については回答の 4 分の 1 が関係ありと答えています。(表 2)

採算と資金繰りは好転せず

業況の改善にもかかわらず 7～9 月の採算状況は、資金繰りとも改善されず、むしろ悪くな
っています。2001 年の予測にしても「資金繰りは苦しい」が比重を高めており、中小企業
の金融環境が憂慮すべき状況にある事を物語っています。(表 3)

営業力強化、新規開拓、技術力の強化がウエイトアップすると同時に重点取引先の増加な
ど営業努力が売上・利益の改善をもたらしていることがわかります。今後の経営上の力点
もこうした項目に集中しています。

経営上の力点調査について前回調査よりウエイトアップした項目(上位 5 項)は下表のと
おりです。

現在、人的要素への重視が目立ちますが今後は情勢判断や企業戦略を的確に判断できるよ
うにしたいと「不安定な時代」対応を重視しています。また、経費削減による利益確保に
ついては前回よりもウエイトを下げています。

製造、流通分野の改善進む

業種別集計によれば、前回調査に続き製造業の業況改善が進んでいます。OA関係、印刷の他流通商業分野も今回初めて売上、利益、受注のD I 値をプラスにしました。物流運輸、建設、不動産の2分野は、依然として水面下の状態から抜け出せていません。(表4) 規模別に見ると前回苦境下にあった一～九人の小規模企業の景況は、D I 値プラスに転じましたが十人以上規模企業が比較的に高いプラスD I 値を示しているのと比べればまだまだ低いレベルにあるといえます。(表4)

文責 小川正昭

表1: 景況調査総括表

----	--7～9月結果--		-10～12月予測--		-2001年上期予想-	
-	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比
売上	+ 6.2	+13.3	+25.0	+14.1	+ 6.2	+ 8.6
利益	+ 0.7	+10.9	+19.5	+ 9.4	▲ 0.8	+ 7.0
受注	+ 3.1	+12.5	+21.1	+17.1	+ 2.3	+ 9.4

表2: 環境変化の予想と政策(カッコ内は前回調査)

<input type="checkbox"/> 今後の景気見通し 最悪景況続く……18.0(16.0) 今年も不安定……63.3(65.4) 今年は回復傾向……18.0(17.3)	<input type="checkbox"/> 業界の見通し 好 転……11.7(14.8) 底入れ……39.8(45.7) 悪 化……43.8(35.8)
<input type="checkbox"/> 景気回復の兆し 一部に出ている……44.5(42.0) かなり出ている…… 2.3(6.2) ほとんど出していない……50.0(49.4)	<input type="checkbox"/> 銀行の対応の変化 好 転…… 8.6 悪 化……14.1 変化無し……74.2
<input type="checkbox"/> IT関連の仕事はありますか あり……24.3 なし……72.7	

表3:

7～9月の採算状況		7～9月の資金繰り		2001年上期予測	
-	今回調査(前回)	-	今回調査(前回)	-	今回調査(前回)
黒字	40.6%(48.1%)	楽	15.6%(12.3%)	楽	11.7%(12.3%)
トントン	29.7%(23.6%)	普通	50.8%(65.4%)	普通	57.8%(65.4%)
赤字	27.3%(21.0%)	苦しい	32.0%(21.0%)	苦しい	28.9%(21.0%)

<売上増・利益増の要因>

売上増	
新商品・サービス開拓	+6.9ポイント
高付加価値	+4.8ポイント
取引先企業の業容変化改善	+4.6ポイント
社員能力レベルアップ	+4.0ポイント
技術力の強化	+3.9ポイント

利益増	
営業力強化拡大	+5.3ポイント
重点取引先の増加	+4.1ポイント
社員能力レベルアップ	+3.9ポイント
取引先企業の業容変化改善	+3.0ポイント
技術力の強化	+2.6ポイント

<経営上の力点>

現在実施中	
営業力拡大	57.3%
新規販路・新分野開拓	33.3%
生産性アップ効率化	22.7%

今後新たに実施	
新規販路・新分野開拓	35.2%
営業力の拡大	34.4%
新製品・サービス開発	23.7%

<経営上の力点調査について前回調査よりウエイトアップした項目>

現在実施中	
人材の採用	+9.2
生産性アップ効率化	+5.4
社員能力レベルアップ	+4.6
新規販路・新分野開拓	+2.7
新製品・サービス開発	+1.2

今後新たに実施	
新規販路・新分野開拓	+9.0
情勢と企業戦略の判断	+6.3
新製品・サービス開発	+5.0
生産性アップ効率化	+4.1
重要取引先を増やす	+4.0

表4: 規模別景況DI値(前年同期比)

	売上		利益	
-----	7～9月結果	10～12月予測	7～9月結果	10～12月予測
1～9人	+2.4	+4.7	+2.4	+4.8
10～19人	+12.5	+18.7	+12.5	+9.3
20～49人	+21.7	+21.6	+18.9	+13.5
50～99人	+16.7	+0	+16.7	+4.4
100人～	+40.0	+40.0	+0	+20.0